

Title	歴代詔勅集, 辻善之助監修, 目黒書店發行
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1939
Jtitle	史学 Vol.17, No.4 (1939. 7) ,p.161(689)- 161(689)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19390700-0161

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

天皇の時より御靈會始まり、後三條天皇以後、行幸等のこと相踵ぎ、疫病流行に際しては必ず奉幣の儀ありて明治維新に至る由緒嚴然たる大社である。

終に本書は神徳の發揚に資するのみならず、學界に貢獻する處極めて多きを紹介し、方今の時局に際會し赫々たる神威を景仰し益々出征皇軍の武運長久を祈願して擱筆する。(昭和十四、四、十八、武田勝藏)

歴代詔勅集

辻善之助監修
目黒書店發行

本書は皇祖の神勅より今上陛下の軍人援護の勅語に至るまで、古來の詔勅宣命等にして、御聖徳を拜仰し得るものを中心として、國史上重要なるものを、信憑すべき史料に據りて蒐集し、便宜上、三十を神代より現代に至る各時代に分類し、御歴代中に於ては各年代順に排列せしもので、更に鎌倉時代以降は宸翰・御願文・御訓誠書・御消息・御奥書等をも滿載してゐる。又其の様式は各詔勅毎に先づ標題を掲げ、其の原文の漢文にして一般に難解のものは、其の謹譯を載せ、次に原文を擧げ、難讀の語句には振假名を付してゐる。

本書は東都出版界の重鎮たる目黒書店の開業以來、明治文運隆昌の庇蔭に因り、更に昭代の恩澤に浴し、五十年の星霜を閲したる報恩記念として、之が編纂を森末義彰岡山泰圓兩氏に委嘱して刊行し、弘く諸學校等に頒ち、以て國體の淵源の深遠なるを知得せしめむとしたものである。

書評

猶ほ所藏原文の讀方等に付きては、或は一二の異論あらむも、本書の教學の上、はた學徒の史學研究の上に多大の貢獻あるは疑はざると共に、編纂者並に書店の勞に敬意を表す。(昭和十四年四月十九日・武田勝藏)

川崎市史通史編

(川崎市役所
編纂・發行)

我が國港灣工業都市たる川崎市は、汪洋たる多摩の川口近くの部落たりし古より凡そ千數百年の歴史を有し、其の間、變遷消長ありて、今日の盛大と股賑とを見るに至りしものである。本書は先づ總論に起筆し、史前時代より現代までを六章に分ち、綱を提げ要を摘んで記述され、實に川崎市の發達史である。

川崎の繁榮の端は、家康の江戸經營であり、又五街道設置である。川崎の街道驛としての出現は、驛次創制より稍遅れ、川崎が新設加入せられ、始めて東海道は五十三次と稱呼せられ、其の置驛の年代には從來異説があり、本書は元和九年と證を擧げてゐる。爾來、問屋場・本陣等は完備し就中、寶永五年六郷川の渡船權を附與せられし以來は、次第に股賑を極め、幕末に至る迄には幾多の起伏があつた。

明治元年明治天皇の御東行の節、六郷川には船橋を用意せしも、押し來る文明開化の波は、今更の如く架橋の必要を迫り、明治十六年六郷橋が竣工し、橋行く人々は昭代の恩澤を謳歌した。其の後、兩度程、流失の禍に遭ひ、大正十四年八月現在の一大新式鐵橋の出現を見た。又其の間五年五月東京横濱間の鐵道の開通に依

(六九)

一六一